

2024年11月21日

東京大学

## 東京大学はアートセンター施設を仮オープンします

～さまざまな「美」にアプローチする新たなエコシステムのために～

### 発表のポイント

- ◆東京大学芸術創造連携研究機構は、東京大学初めてのアートセンター施設を実験的に開設し、アートプロジェクト「ソノ アイダ」と連携します。
- ◆アーティスト・イン・レジデンス、ツリーハウス展示、異分野交流会等を開催することで、創造性の根源としてのさまざまな「美」へのアプローチの可能性を探ります。
- ◆アートの実践と対話を前面に出したアートセンターの設置は、総合大学における芸術科学連携の新しい形を示します。



本郷地区・通信機械室「東京大学アートセンター 01\_ソノ アイダ」 前景

### 発表概要

総合大学における人文社会科学・自然科学研究は、これまで芸術活動とはほぼ無縁のものと考えられてきました。近年の世界的な芸術科学連携のトレンドにおいては、「美」を通じた科学技術のイノベーションならびにインキュベーションの重要性が強調されはじめています。東京大学はこのトレンドにいち早く応答し、2019年に7部局の連携により、芸

術創造連携研究機構(ACUT、注1)を発足しています。第1期5年間のACUTの活動は、芸術関連授業ならびにシンポジウムの開催による学内アート・リテラシーの改善に重点が置かれてきましたが、実体をもったアートセンター施設はこれまで実現できませんでした。今回、2期目を迎えたACUTはソノ アイダ(注2)らの外部団体と連携し、東大初のアートセンター施設を本郷地区・通信機械室の1~2階に実験的に開設しました。

## 発表内容

### 〈背景〉

ハーバード大学やイエール大学、北京大学や清華大学など、世界の主要な大学は芸術実技の導入に積極的に取り組んでいます。リベラル・アーツ(教養教育)として芸術実技の授業を開講したり、近年になって芸術学部を設置した大学もあります。しかし日本の総合大学で、こうした試みをしているところはほとんどないと言われていています(文献1)。このような考えから、ACUTは芸術実技の授業の実践を続けてきました。しかし、その「場」が目に見える形での「アートセンター施設」として結実しなければ、芸術科学連携の思想は大学のシステムの中に溶け込んでいってしまうのではないかとの機運が高まってきていました。

### 「東京大学アートセンター 01\_ソノ アイダ」の開設

ACUTは2024年11月、「ソノ アイダ」の資金・企画提供により、実験的な連携アートセンター施設「東京大学アートセンター 01\_ソノ アイダ」を開設しました。場所は本郷地区の安田講堂の裏手にある通信機械室の建物の1~2階において五か月間活動し、その効果を解析することとなりました。

「東京大学アートセンター 01\_ソノ アイダ」は、12/2, 12/4のオープニングイベントを皮切りに、都市の隙間をアート活動としてきた「ソノ アイダ」によるARTIST STUDIO(アーティスト・イン・レジデンス(注3)での公開制作や、美術評論家の楠見清、スパイラルの松田朋春らとの連携による連続トークショー、ウェブマガジンの発刊、野外パブリックアートの展示ならびに設置企画等を行い、多面的な「アートの場」を学内に出現させることをその第一義とします。

### ツリーハウスの野外展示によるキャンパスの修景

これに並行して、キャンパスの修景を行います。ACUTは2024年11月~2025年2月にかけて、東京大学本郷地区・工学部1号館前広場にて、木村勝一氏作のツリーハウス(注4)を屋外展示し、キャンパスの風景を調えます。

本ツリーハウスは、土台の木の幹にあたる部分から鉄骨により自作したもので、「再生の

樹」と題された現代オブジェとなっています。特に五角形の室部の外部表面の縞鋼板は、東日本大震災における廃材を用いたもので、これまで気仙沼の東日本大震災仮設住宅や八戸市美術館等での展示を行っているものです。今回、八戸市在住の木村氏によるこの東北の原風景を基盤としたどこか懐かしくまた現代的でもあるオブジェの設置により、無機質的になりがちなキャンパスの風景をアーティスティックに整え、大きなインパクトを与えています。



本郷地区・工学部一号館前・木村勝一作「木のないところにツリーハウス／再生の樹」

#### 学術的意義

本アートセンター施設の開設により、創造性の根源としてのさまざまな種類の「美」へのアプローチの可能性を探ります。また本アートセンター施設でのプロジェクト全体は、自然科学のすぐれた論文は「美」を内包しており、先端的な学術活動は「美」へのアプローチを内在させるとの作業仮説の実証研究としての側面を持ちます。多様な「美」へのアプローチへのエッジとなる活動の学内拠点として、総合大学の研究・教育活動の質的・量的な深化の手法を開発します。

## 社会的意義

本アートセンター施設は、インスピレーションの場の提供により、教育・研究・創作活動のジャンプアップへの道を開きます。具体的には、開かれたアーティスト・イン・レジデンス、ツリーハウス「再生の樹」の展示や関連イベント、ラウンド・テーブル・ディスカッションやトークイベント等の異分野交流会(注5)等を通し、さまざまな「美」へのアプローチ(注6)を行います。本アートセンターは、アートの力によって研究者の内奥に思いがけない「感知」の力を生み出し、結果として先進科学技術や人文社会科学のイノベーションへと繋がることを企図します。総合大学ならではの新たなアートセンター施設の試みを実装します。

### 〈関連のプレスリリース〉

・東京大学芸術創造連携研究機構の発足について ――アートで知性を拡張し、社会の未来をひらく―― 2019.5.1

<https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/assets/pdf/info/20190501.pdf>

### 〈関連文献〉

1. 橋爪勇介 東大が「芸術」を求める理由。「東京大学芸術創造連携研究機構」はなぜ誕生したのか? 美術手帖, 2019.6.27

<https://bijutsutecho.com/magazine/insight/20038>

## アクセス

●ソノアイダ # 東京大学 通信機械室 1F (アーティスト・イン・レジデンス、トークイベント等)

2024.12.4(水)~2025.3.31(月) 10時~17時 理学部1号館前・通信機械室

随時観覧可・入場無料・2024.12.4 開所式(15:00~) オープニング(18:00~)

●木のないところにツリーハウス (パブリックアート展示)

2024.12.4(水)~2025.1.31(金) 終日 工学部1号館前庭

随時観覧可・入場無料・2024.12.4 テープカット(14:30~)

●デイビッド・マシューズ・スペシャル・トリオ・コンサート (プレトークつき)

2024.12.2(月) 17:30~22:30 工学部11号館 HASEKO-KUMA HALL

要予約(11月29日(金)予約締め切り)・入場無料

## 発表者

東京大学

芸術創造連携研究機構

田中 庸介（副機構長・大学院医学系研究科講師）

藤元 明（連携支援フェロー・ソノ アイダ 代表）

金井 学（大学院総合文化研究科特任准教授）

舘 知宏（副機構長・大学院総合文化研究科教授）

岡田 猛（機構長・大学院教育学研究科教授）

## リンク先情報

〈ACUT2024〉 <https://www.acut2024.com/>

〈ACUT〉 <https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/>

〈ソノ アイダ # 東京大学〉

[https://sonoaida.jp/tokyo\\_univ/](https://sonoaida.jp/tokyo_univ/)

〈デイビッド・マシューズ・コンサート特設予約サイト〉

<https://t.livepocket.jp/e/3f1v9>

## 用語解説

注1 東京大学芸術創造連携研究機構

「アートで知性を拡張し、社会の未来をひらく」を旗印に芸術科学連携活動を推進する東京大学の学内組織。2019年に発足。岡田猛機構長。<https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/>

注2 ソノ アイダ

貸し物件や空き物件、建て直しまでの占有権のないその間を、空間メディアとして活用するアートプロジェクト。「都市の隙間に空間メディアを出現させる」ため、東京各地に複数のプロジェクトを進行中。藤元明代表。<https://sonoaida.jp>

注3 アーティスト・イン・レジデンス

アーティストの滞在制作場所を設け、サイトスペシフィックな芸術活動を意図した現代アートの手法。特に「ソノ アイダ」は都心の空きビル物件を滞在制作場所として利用することにその特長がある。

注4 ツリーハウス

八戸市のツリーハウスビルダー、木村勝一氏の作品。「再生の樹」と題されたもので、東

日本大震災のがれきの一部により制作され、再生と希望の思いが詰まったものです。

#### 注5 異分野交流会

コロナ後におけるライフスタイルのひとつのキーワードに「重層性」があります。一人の人物が同時にアーティスト、科学者、家庭人などのさまざまな顔を持つことも多くありますが、それらの顔を持つ多数の人々がランダムに話し合うことにより、分野間の重層性を高め、マージナルな思想的融合の実現を意図しています。

#### 注6 さまざまな「美」へのアプローチ

現代アートにおいて「美」は中心概念から避けられる傾向がありますが、定理や数式を「美しい」と考える科学者は数多くあります。ACUTは「美」の概念を多面的なものと考え、そこへのアプローチを多角的に執り行う多数の異なった人々の集合体としてのアートセンターのあり方を提案していきます。

### 問合せ先

〈発表に関する問合せ〉

東京大学芸術創造連携研究機構 副機構長

田中 庸介（たなか ようすけ）

TEL: 090-8088-3745

E-mail : [tanaka@m.u-tokyo.ac.jp](mailto:tanaka@m.u-tokyo.ac.jp)

東京大学芸術創造連携研究機構 大学院総合文化研究科 特任准教授

金井 学（かない まなぶ）

TEL: 03-5465-7299

E-mail : [manabukanai@g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:manabukanai@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

東京大学芸術創造連携研究機構 連携支援フェロー

鶴見 智佳子（つるみ ちかこ）

TEL: 090-3800-2458

E-mail : [tsurumic@gmail.com](mailto:tsurumic@gmail.com)

東京大学芸術創造連携研究機構 連携支援フェロー（ソノ アイダに関するお問い合わせ）

藤元 明（ふじもと あきら）

TEL: 090-1777-5107

E-mail : [info@sonoaida.jp](mailto:info@sonoaida.jp)